

2025 年度生態工学会 第 3 回理事会  
日 時：2026 年 2 月 26 日（木）14:30～15:30  
場所：ハイブリッド開催（東京文化会館・zoom）

【総務委員会】

2025 年度総務委員会活動報告（2 月期）

(1) 会員数・賛助会員数

会員数：2026 年 2 月 25 日現在（カッコ内は 2025 年 10 月 23 日からの増減）

終身会員 2 名（増減なし）

正会員 318 名（2 名減）

学生会員 87 名（増減なし）

合計 407 名（2 名減）

賛助会員数：5 団体 6 口（増減なし）

ダイキン工業株式会社(2 口)、ホテイ産業研究所(1 口)、

宇宙システム開発株式会社（1 口）、クリムゾンインタラクティブ(1 口)

プライムデリカ株式会社（1 口）

(2) 審議事項

・令和 8 年度「日本工学会フェロー」の推薦について

・第 42 回国際生物学賞受賞候補者の推薦について

・コスモス国際賞受賞候補者の推薦について

・日本学術会議会員候補者の推薦について

⇒各理事より適任者の推薦がある場合は、会長および総務委員会へ連絡いただくこととなった。

・2026 年度日本農学賞受賞論文要旨および祝賀会の事前申込について

⇒祝賀会への参加希望者がいる場合は、会長・総務委員会・事務局にご連絡をいただくこととなった。

・第 13 期委員会名簿案の修正について

⇒修正案の内容を確認し、承認された。

なお、関東支部については下記に記載の報告事項の通り、支部長および幹事の交代が確認され、名簿に反映することとなった。

・(株)Seed Bank からの賛助会員への入会申し込みがあり、入会を承認することとなった。

(3) 報告事項

・「日本工学会 令和 7 年度第 2 回会長・フェロー懇談会」に船田 良会長がオンラインで出席された。

・「2026 年度日本農業工学会学会賞」に谷 晃副会長の推薦を行い、受賞が決定した。

・「2026 年度 日本農業工学会フェロー」に候補者として桜井誠人副会長、遠藤雅人理事の推薦を行い、受賞が決定した。

以上

## 【編集委員会】

### 2025年度編集委員会活動報告（2月期）

下記のように報告がなされた。

#### (1) 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」37巻2号～37巻4号(2025年4月、7月、10月発刊)を発行した。(内容：原著論文3、短報2、ニュース・企画・報告0、お知らせ、投稿規程)。また、38巻1号には原著論文が3報掲載予定である。なお、2026年1月18日時点で受理済みの原著論文が1報、査読・著者修正中の論文・短報はない。

また、37巻4号までをJ-STAGE上の電子ジャーナルとして公開した。

#### 2025年度「生態工学」掲載論文一覧

種類	第37巻			第38巻
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	1	2		(3)
短報		1	1	
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿				
ニュース・企画・報告				

#### (2) 学会賞の推薦

本年度は奨励賞、論文賞の該当者なしとして表彰委員会に報告した。

以上

## 【企画委員会】

### 2025年度企画委員会活動報告（2月期）

下記のように報告がなされた。

- (1) 日本地球惑星科学連合 2025 年大会（合同開催）  
日 時：2025年5月25日（日）～5月30日（金）  
会 場：幕張メッセ、オンライン（ハイブリット方式）  
主 催：日本地球惑星科学連合  
特記事項：5月25日（日）にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システム  
およびその応用」において、口頭発表5件（13:45～15:00）、現地ポスター  
発表6件（17:15～19:15）を実施した。
  
- (2) 2025 年度生態工学会年次大会（主催）  
日 時：2025年7月4日（金）～7月5日（土）  
会 場：柏の葉カンファレンスセンター  
参加人数：92名  
特記事項：
  - 7/3 エクスカーション「千葉大学柏の葉キャンパス内植物工場施設、バイオヘル  
スイノベーションハブ（新研究棟）」 参加20名
  - 一般セッション口頭発表 20件、ポスターセッション 10件
  - オーガナイズドセッション 3件「月面・火星居住を見据えた企業等の取り組み」宇宙事業推進委員会、CELSS委員会  
「次世代科学社会応援シンポジウム2025」次世代科学社会活性化委員会  
「日本を元気にするNPOの活動（その3）」 NPO法人蔵前バイオエネルギー
  
- (3) 日本マイクログラビティ応用学会 第37回学術講演会 JASMAL-37（協賛）  
日 時：2025年9月11日（木）～9月13日（土）  
会 場：北海道室蘭市 FKホールディングス生涯学習センターきらん  
特記事項：9月1日13:00から14:20にかけてOS「宇宙惑星居住・ECLSS」を実施し、  
下記4件の口頭発表を行った。  
OS1-1 微小重力環境における空気再生システムの現状と課題  
○戸田和宏、島明日香、桜井誠人（JAXA）  
OS1-2 宇宙ステーションにおける水再生  
○今村勇氣、松本 聡（栗田工業 宇宙の水プロジェクトグループ、JAXA）  
OS1-3 ECLSS環境における製品・サービスのシステムデザインのための要求分析  
○野中朋美、白坂成功（早大、慶應義塾大）  
OS1-4 ECLSSが月圏物資輸送需要に与える影響の評価：再生システムと自立システムの  
システムダイナミクスの比較  
○敷田剛志、長田泰一、大木優介、神武直彦（慶應義塾大、JAXA）
  
- (4) 第69回宇宙科学技術連合講演会（共催）  
日 時：2025年11月25日（火）～11月28日（金）  
会 場：札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）  
特記事項：11月28日の9:00から16:30にかけてOS「宇宙で生きる！～宇宙居住と物質循  
環～」を実施し、下記17件の口頭発表を行った。初めての発表者も複数あり、  
特に「しんかい6500」の発表は有人宇宙船と相通ずる部分が多く、南極越冬  
の発表も限られたリソースで生活する具体的な話を聞くことができ意義が  
あった。

- 4A01 溶媒添加を駆動力とする CO<sub>2</sub> 選択的回収  
○稲垣冬彦、村上 遼 (神戸学院大)
- 4A02 ゼオライト系多孔体を使った空気浄化  
○大西良治、引間 脩、武脇隆彦 (三菱ケミカル)
- 4A03 CeO<sub>2</sub> を用いた CO<sub>2</sub> 除去基礎性能評価試験  
○戸田和宏、島明日香、桜井誠人 (JAXA)
- 4A04 電気化学システムによる二酸化炭素分離濃縮 Electrochemical Carbon dioxide Capture and Concentration  
○中山奈緒子、水谷俊介、平村泰章、児玉充浩 (GS ユアサ)
- 4A05 サバチエ反応-酸素製造-体化反応器の研究：酸素製造部の改修検討  
○島明日香 (JAXA)
- 4A06 宇宙居住環境における窒素・カリウムの循環利用技術の検討  
○山口匡訓、高橋 顕 (産総研)
- 4A07 光触媒技術を用いた有用物質生産と有害物質除去の試み：紫外光照射波長の影響  
○酒井秀樹、滋野暖高、淡路遥斗、荒川京介、勝又健一 (東京理科大)、大古善久 (産総研)
- 4A08 物質循環型食料生産システムでの資源再生を律速する生物化学的要因について  
○遠藤良輔 (大阪公大)
- 4A09 月面居住施設における建築設備設計手法の検討 ～短期滞在モジュールによるケーススタディ～  
○松岡竜也 (竹中工務店)、佐藤 淳 (東大)、大畑勝人、田中 匠、佐藤達保、天野千裕、谷英明、富永悠介 (竹中工務店)、河鱒実之、横関智弘 (東大)、斉藤一哉 (九大)、桜井誠人、阿波田康裕 (JAXA)、星之内菜生 (阪大)
- 4A10 快適 ECLSS×ECLSS：宇宙での快適な暮らしと循環を支える製品・サービス  
○野中朋美 (早大)
- 4A11 Space Station OS による ECLSS プラットフォーム構想  
○飯野翔太、加藤裕基、坂本香子 (スペースデータ)
- 4A12 火星有人探査 ECLSS 物質循環における植物栽培の影響に関するシミュレーション  
○諸島玲治、山本愛弥子、広崎朋史 (宇宙システム開発)、宮嶋 宏行 (国際医療福祉大)
- 4A13 南極昭和基地での越冬生活  
○津和佑子 (佐藤淳構造設計事務所)
- 4A14 有人潜水調査船「しんかい 6500」耐圧殻内の環境制御システム  
○川間 格 (JAMSTEC)
- 4A15 水中環境を利用した疑似月面スキューバダイビングコース  
○藤永嵩秋 (AquaNaut、エコ・プラン、京大)
- 4A16 月極域の縦孔における水氷の存在可能性と ISRU を利用した ECLSS への期待  
○桜井誠人 (JAXA)、篠原直生 (総研大、JAXA)、春山純一 (JAXA)
- 4A17 月資源の利用を見据えた月面活動域拡大の検討  
○宮嶋宏行 (国際医療福祉大)

(5) 定例研究会

第2回定例研究会

日 時 : 10月24日 (第2回理事会後)

タイトル : Plant-based Functional Foods: Insights from Tea Processing and Bioactivity Research

植物性機能性食品 ― 茶の加工と機能性研究からの知見

演者 : 宇都宮大学農学部応用生命化学科助教 秦 葳氏

第3回定例研究会  
日 時 : 2月26日(第3回理事会後)  
タイトル: 未定  
演者 : 帝京科学大学理事 篠原正典氏

以上

## 【広報委員会】

### 2025年度広報委員会活動報告(2月期)

下記のように報告がなされた。

(1) SEE QUICK(メール配信)の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2025年4月1日から2026年2月17日までに61回(2404号より2464号)情報提供を行った。

配信内容としては、学会主催のイベントの開催案内の他、関連学協会からの団体からのお知らせ、および会員からのイベント開催案内、ならびに公募情報等があった。

(2) ホームページの内容の更新

会員および一般の方へ、生態工学会の情報伝達を迅速に行うことを目的に、ホームページのコンテンツ確認作業を行い、適宜内容を更新した。

直近では「2026生態工学会年次大会(宇都宮大会)のお知らせ(2026年6月27日(土)～28日(日))」を掲載した。

(3) 生態工学会リーフレットの改訂(お詫び)

生態工学会13期の役員名簿変更が遅れている。

[https://see.gr.jp/what/pdf/see\\_leeflet\\_20240712.pdf](https://see.gr.jp/what/pdf/see_leeflet_20240712.pdf)



以上

## 【国際委員会】

### 2025年度国際委員会活動報告(2月期)

下記のように報告がなされた。

(1) 活動報告

国際委員会副委員長として田村匡嗣氏(宇都宮大学)、委員として秦 蔵氏(宇都宮大学)、戸田和宏氏(JAXA)にご参画頂いた。

(2) 事業計画

2026年宇都宮大学年次大会で国際シンポを実施する方針で動き始めました。

以上

【産学連携委員会・関西支部】

2025年度産学連携委員会活動報告（2月期）

下記のように報告がなされた。

(1) 2025年度活動報告

【「食と健康」シンポジウム ―伝統から未来へ―】 開催準備中

・**目的・狙い**：本シンポジウムの目的は、食文化の多様性が人々の健康にいかに関与し、生活の基盤を作り上げているかについて明らかにすること。歴史的、地域的、そして科学的な観点からその意義を探究し、参加者の皆様に食文化と腸内健康の深い関連性について認識を深めていただくことを狙いとしている。

・**日時**：2026年3月6日(金) 14:00～16:30

オンライン開催・参加費無料・誰でも参加可能

・**セッション1：伝統と健康の融合**

(テーマ)食文化と健康の関係探求

・ 講演1(基調講演)：食文化の多様性と重要性：

南 直人氏 (立命館大学食マネジメント学部教授)

・ 内容：各地の食文化の特色や歴史的背景を詳述。地域の健康にどのように食文化が影響しているかを、各地域の事例を挙げつつ説明

・ 講演2：伝統食と腸内フローラとの関係：富本千晶氏 (Noster(株) 研究部 グループリーダー)

・ 内容：伝統的な食文化の健康への貢献について、特に腸内フローラの役割を提唱しながら、研究を用いて参加者に日常生活で活用できる知識を提供

・**セッション2：イノベーションの力で食文化をアップデート**

(テーマ)技術と科学がもたらす未来の食文化

・ 講演3：農水省「知の集積」取組み紹介 ・ 八朔の機能成分による熱中症対策：

永野量平氏 (TOPPAN ソーシャルイノベーションセンター)

・ 内容：八朔を活用した新しい機能性食品の開発事例を通じて、熱中症予防に関する具体的な成果を共有

・ 話題提供：農水省「フードテック官民協議会」取組みのご紹介：長田裕貴氏 (農水省)

・ 内容：フードテクノロジーの最新の応用事例とそれに関する政策について言及し、技術革新が食品産業にもたらす影響を考察

・**総合パネルディスカッション&質疑応答**

(テーマ)伝統とイノベーションが織りなす新しい食の姿

・ 内容：全講演者によるパネルディスカッション。伝統的な食文化と現代のフードテクノロジーの融合がどのように資源循環型未来社会に貢献するかを討論

・**登録者状況**



登録者の内訳

【コメント】

・食と健康をテーマにした取組みについては、世の中の動きに注視していきたい。

・東京科学大学教授 木村英一郎氏：デジタル・フードプラット・フォーム構想

以上

## 【次世代科学社会活性化委員会】

### 2025年度 次世代科学社会活性化委員会活動報告（2月期）

下記のように報告がなされた。

男女共同参画学協会連絡会の運営委員として活動を継続している。生態工学会は、男女共同参画学協会連絡会内で、日本宇宙生物学会と供に、「男女共同参画学協会連絡会」に関する問題洗い出しWG活動を行っている。2025年10月11日の男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加し、生態工学会の活動報告およびポスター発表をした。世代を超えて知り合い語り合う場であるNAGOMI会（NAGOMin）も継続している。第28回は宇宙教育スペシャリストにオンラインで話題提供していただく予定(2/28)である。2023年度後半より総務委員会の協力を得て個別zoomを利用している。日本地球惑星科学連合2026年大会（千葉幕張メッセ・ハイブリッド）のセッションを企画委員会とともに企画し11題の発表を予定している。今回は共同コンペーナに若手を含め、若手育成も視野に入れて開催する。当委員会は、世代や性別等を区別することなく、広く互いに知り合う会として、引き続き活動していく予定である。委員会活動は、協力者を随時求めている。

以上

## 【CELSS委員会】

### 2025年度 CELSS委員会活動報告（2月期）

下記のように報告がなされた。

#### (1) JPGU：日本地球惑星科学連合2025年大会

日時：2025年5月25日（日）～5月30日（金）

会場：幕張メッセ、オンライン（ハイブリット方式）

主催：日本地球惑星科学連合

特記事項：5月25日（日）に、[H-CG25] 圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用（コンペーナ：加藤 浩氏（三重大学）を開催。[HCG25-01] 宇宙・月面人工生命維持システムに関する気になるトピックス：中根昌克氏（日本大学）、[HCG25-04] 閉鎖生態系生命維持システム（CELSS）での植物栄養塩回収：遠藤良輔氏（大阪公立大学）、[HCG25-P02] 陸棲シアノバクテリア *Nostoc* sp. HK-01 の乾燥-再水和過程における遺伝子発現および Cyanophycin 代謝動態の解析：小山隼知氏ほか（東京電機大学）、[HCG25-P03] *Shizosaccharomyces pombe* の胞子が有する過酷環境ストレス耐性の解析：篠田沙月氏ほか（東京電機大学）、[HCG25-P04] 閉鎖生態系への導入が検討されている生物の遺伝子機能解析：加藤 浩氏（三重大学）、[HCG25-P05] 世代を超えて全ての年代の人が知り合い語り合える場「NAGOMin」の活動報告：加藤浩氏ほか（三重大学）、[HCG25-P06] 閉鎖居住実験の最新動向：篠原正典氏（帝京科学大学）

5月26日（月）に、[A-OS14] 陸域海洋相互作用—惑星スケールの物質輸送（京都大学：山敷庸亮氏）に、招待講演として[AOS14-07] 月極域近傍の縦孔における水の存在の可能性と月面居住：桜井誠人氏（JAXA）

#### (2) 日本生体医工学会第64回学術大会

日時：2025年6月6日（金）会場：フェニックス・プラザ（福井県福井市）

主催：日本生体医工学会

シンポジウム テーマ：「宇宙に生きる ～宇宙環境とスマートヘルス～」

座長：高田宗樹氏（福井大学）、田中邦彦氏

特記事項：宇宙空間で生活するための問題や、その解決に向けた研究について4名のシンポジストがテーマとして、衣食住、閉鎖空間、宇宙服、放射線被ばくで発表（約15分）。SY2-1-1-2長期有人宇宙活動を支える植物を中心とした物質循環型の閉鎖生態系生命維持システム：北宅善昭、SY2-1-1-4閉鎖居住実験（analog missions）の過去、現在、これから：篠原正典氏

(3) ICES 2024 - Prague -Praha, Czech Republic

54th International Conference on Environmental Systems, July 2025

- ① Kazuhiro Toda, Asuka Shima and Masato Sakurai "Study on Applicability of New Adsorbent CeO<sub>2</sub> to CO<sub>2</sub> Removal Systems Resulting in Decrease of Volume, Weight, and Power Consumption" ICES-2025-285.
- ② Asuka Shima, Yoshitsugu Sone and Masato Sakurai "Carbon Dioxide Reduction-Oxygen Production Tandem Reactor: Development of the Electrolysis Part and Full-scale Testing" ICES-2025-164.
- ③ Masato Sakurai, Nao Hoshinouchi, Nao Shinohara and Junichi Haruyama "Exploration of Vertical Holes Near the Lunar Polar Regions to Confirm the Presence of Water in Underground Caves and Their Utilization" ICES-2025-295.
- ④ Naoko Yamazaki, Shinichi Nakasuka, Shuichi Adachi, Yasue Mitsukura, Shunta Sato and Masato Sakurai "Exergy-based Design Approach for Material Circulation System in Space Platform and its Evaluation" ICES-2025-319.
- ⑤ Hikono Furuichi, Yuki Ban, Motoharu Kusano, Yusuke Sakamoto, Seiji Kamiyoshi, Masato Sakurai, Shin Noguchi and Ichiro Ueno "Sloshing in a Swinging Rectangular Container: Manned Pressurized Rovers for Low Gravity Conditions" ICES-2025-280.
- ⑥ Motoharu Kusano, Taisei Hasumi, Akihiko Murata, Emika Fujii, Toshihiko Chiba, Yuki Ban, Hikono Furuichi, Kazuki Toma, Yuhei Yokozeki, Naoshi Suzuki, Tetsuya Tsuru and Masato Sakurai "ECLSS Lab Platform - Current Activities and Future Plans in the ECLSS Ecosystem in Japan" ICES-2025-247.
- ⑦ Masato Ohata, Jun Sato, Sho Tanaka, Tatsuho Sato, Ryuya Matsuoka, Hideaki Tani, Saneyuki Kawabata, Tomohiro Yokozeki, Kazuya Saito, Nao Hoshinouchi, Masato Sakurai, Yasuhiro Awata "Interior Planning for The Habitation Module to Be Installed Inside the Lunar Pit" ICES-2025-317.

特記事項：例年はNASAから120名ほどの参加があるが今回は12名のみで、キャンセルが多かった。

- (4) 「旅行・住まい・健康・環境技術が宇宙市場を変える：宇宙と地球をつなぐ快適ECLSS × ECLSS（エクルス）の挑戦とは？」（QWSアカデミアスペシャル早稲田大学）
- (5) 一般民間人の健康・快適宇宙生活を実現する宇宙QOL研究開発拠点 第4回公開イベント 「低軌道利用と宇宙旅行にかかわる新産業シーズ創出」@X-NIHONBASHI (9/18)
- (6) 2025年8月10日-16日、大阪・万博2025 大阪ヘルスケアパビリオン内「ミライの食と文化ゾーン／デモキッチンエリア」にて、展示イベントテーマ：-ミライの宇宙での暮らしと食-宇宙未来生活ラボ - 宙（そら）に生きる未来へ（Space Living Lab- Towards Life Beyond Earth）が開催された。主催は、京都大学大学院総合生存学館SIC有人宇宙

学研究センターで、共催として鹿島建設（株）、DMG森精機（株）、協力団体として（一社）宙ツーリズム推進協議会、コスモ女子、宇宙ごはん研究会、にご協力いただいた。また同時に開催した宇宙服展示においては、岐阜医療科学大学のKnight Suitsと、Amateras Space株式会社のVESTRAの展示を行い、世界初の西陣織宇宙服を披露した。また、スペースカフェにおいては、株式会社Space Shiftと、Amulapo（株）の協力を得ると同時に、宇宙産業機構による宇宙検定も実施した。

- (7) 日本マイクログラビティ応用学会の学会企画Space Festival in Muroranにて登壇(桜井誠人氏)  
日時：2025年9月13日(土)  
会場：北海道室蘭市 FKホールディングス生涯学習センターきらん  
ISS：国際宇宙ステーションの生命維持技術と将来の構想
- (8) 再開第5回ムーンビレッジ勉強会：2025年11月20日(木) 17時から@クロス日本橋ベース、「月に設営するベースキャンプのパッシブ展開構築法と月面経済に関する試算例」東京大学新領域創成科学研究科 佐藤 淳氏
- (9) 再開第6回ムーンビレッジ勉強会：2025年12月12日(金) 17時から@クロス日本橋ベース、「宇宙建築と建設：月面における加圧宇宙居住施設および全自動建設」元JPL職員 A・スコット・ハウ氏
- (10) 宇宙惑星居住科学連合 第五・六期2025年度運営委員会がリモートで開催された(1/15) 3月2日(月)の12:00~13:00、宇宙環境利用シンポジウムの昼休みの時間帯に、宇宙惑星居住科学連合運営委員会が開催される予定。
- (11) 横浜YOXO(ヨクゾ)フェスティバル2026(1/31、2/1)
  - ・ 宇宙で生きるしくみをつくろう！ECLSS(エクルス)大実験★@みなとみらい駅チューブにて神奈川県&早稲田大学と出展(1/31、2/1)
  - ・ 1/31(土)14:30-16:00:宇宙居住の未来を語ろう~宇宙で味わう楽しみと心の揺らぎ@ランドマークプラザ サカタのタネ ガーデンスクエア、京都大学SIC有人宇宙学研究センター
  - ・ 2/1(日)15:30-17:00:宇宙のくらしってどんな感じ?ちょっくらこてつくんと大冒険★@ランドマークプラザ サカタのタネ ガーデンスクエア
- (12) 2/5(木)神奈川県主催「神奈川宇宙サミット」に参加、16:15-16:55:「サステナビリティの答えは、宇宙にある~ECLSS(エクルス)が描く水・空気・食・エネルギー・再生医療の未来~」
- (13) 宇宙基金第二期(宇宙転用・新産業シーズ創出拠点「SX-CRANE」) 早稲田大学 野中朋美氏「牽引型:一般民間人の健康・快適宇宙生活を実現する宇宙QOL研究開発拠点」採択
- (14) 第二期宇宙基金【輸送】有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術(文部科学省)審査中
- (15) 日本宇宙航空環境医学会令和7年度 第1回 宇宙基地医学研究会、3月6日(金)18時~20時、
  1. 日本発有人宇宙輸送システム実現に向けて  
内山 崇氏(JAXA)
  2. 生命維持システム(ECLSS)について

- 桜井誠人氏 (JAXA)
3. 月面有人と圧ローバーについて  
大濱伸之氏 (JAXA)
  4. 船外活動用宇宙服について  
田中邦彦氏 (岐阜医療科学大学)
- (16) 第7回 宇宙QOL研究開発拠点イベント「宇宙旅行・宇宙生活時代における「快適」と「QOL」とは何か？」(QWSアカデミア 早稲田大学) @渋谷スクランブルスクエア15F、2026.03.30(月)
- (17) 宇宙建築学の教科書(仮)、出版社：彰国社、執筆中、東海大学、十亀昭人氏リード
- (18) 令和7年度の宇宙無人建設革新技術開発「宇宙を目指す建設革新会議」スターダストプログラム、令和7年度で終了の予定であったが、予算は追加しないで令和8年度まで延長する。宇宙基金へつなげられるか検討中。
- (19) 日本建築学会内部で「宇宙居住小委員会」が立ち上がった。東海大学、十亀昭人氏のリード。月極域の縦孔探査用居住モジュール、地上のアナログサイト、などの建築のデザイン検討を依頼開始した。3年後ぐらいに出来る予定。

以上

### 【宇宙事業推進担当委員会】

#### 2025年度宇宙事業推進担当委員会活動報告(2月期)

下記のように報告がなされた。

#### 《活動報告》

- (1) 宇宙事業推進委員会からの情報提供として、生命維持、宇宙居住を中心とした宇宙技術、ビジネスに関連するニュース、イベント、助成金等の情報をSEE Quickで配信した。(第16回：2025/12/4、第17回：2026/2/9)
- (2) 2026生態工学会年次大会において、宇宙居住に関連するオーガナイズドセッションを企画検討中。
- (3) 宇宙居住の関連分野をリスト化し、分野毎の団体・企業のリストを作成中。

#### 《活動計画》

##### (1) 今後の活動計画

- ① 生命維持、宇宙居住に関するニュース、イベント情報、助成金・補助金等の情報収集を行い、SEE Quickで2～3ヵ月に1回程度定期的に配信する。
- ② CELSS委員会と協力し、2026年次大会において宇宙居住関連のOSの準備を進める。
- ③ 宇宙居住の関連分野をリスト化し、分野毎の団体・企業のリストを作成する。このリストに基づいて年次大会OS等の発表候補選定に役立てると共に、ある程度リストが作成出来た段階で賛助会員入会の打診も検討する。
- ④ NPO法人日本火星協会等と協力して、月・火星居住をメインテーマとしたシンポジウムを検討・企画する。

以上

## 【各支部活動】

### 2025年度各支部活動報告（2月期）

下記のように報告がなされた。

#### 【北海道・東北支部】

今後とも会員数の増加に向けて努力する。

#### 【関東支部】

・関東支部の役員交代に伴い、以下の候補者を選任することについて審議する。

- ・支部長：篠原正典理事
- ・幹事：新井真由美理事

#### 【九州・沖縄支部】

##### (1) 活動報告

- ・日本農業気象学会九州支部の後援（長崎県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門、2025年11月5-6日）
- ・持続可能で効果的な支部活動の在り方の検討
- ・継続的な会員募集

##### (2) 事業計画

- ・他学会（近隣分野）九州支部との共同企画の検討（後援など）
- ・継続的な会員募集

以上

## 【2026 生態工学会年次大会】

### 2026 生態工学会年次大会(宇都宮大会) 準備状況

下記のように報告がなされた。

#### (1) 大会組織 (敬称略)

大会委員長：齋藤高弘氏 (宇都宮大学)

実行委員長：田村匡嗣氏 (宇都宮大学)

実行委員：遠藤雅人氏 (東京海洋大学)、遠藤良輔氏 (大阪公立大学)、秦 蔵氏 (宇都宮大学)、田村治美氏 (ICU)、土肥哲哉氏 (JORA)、中根昌克氏 (日本大学)、細井文樹氏 (東京大学)、石神靖弘氏 (高崎健康福祉大学)、寺添 齊氏 (電力中央研究所、事務局)

#### (2) 開催概要

【日 程】 2026年6月27日(土)～28日(日)

1日目：AM 研究発表、PM 総会、表彰式、特別講演会、懇親会

2日目：AM 研究発表、PM 研究発表、閉会式

【会 場】 ライトキューブ宇都宮

〒321-0969 栃木県宇都宮市宮みらい1-20



アクセス：JR 宇都宮駅東口直結 (2F 新幹線改札フロアから自由通路を通り徒歩2分)

【昼 食】 会場周辺には餃子屋、レストラン、スーパー、コンビニがたくさんあります。ご活用ください。

【特別講演会】 検討中

【OS】 要項検討中 (募集開始 3月1日予定)

【研究発表】 要項検討中 (募集開始 3月1日予定)

【懇親会】 6月27日(土) 宇都宮駅周辺予定

→事前予約のみ、当日申し込みは受け付けません

#### (3) 大会参加費

会場費や懇親会費等諸経費の値上がりに対応するため、本大会より、大会参加費・懇親会費を改定させていただきます。ご理解、ご協力よろしくお願い致します。

	大会参加費		懇親会
	事前申込	当日払い	
会 員	¥7,000 (+2,000)	¥9,000	¥6,000(+1,000)
非会員	¥9,000 (+2,000)	¥11,000	¥7,000(+1,000)
学生会員	¥4,000 (+2,000)	¥6,000	¥3,000
非会員学生	¥6,000 (+2,000)	¥7,000	¥4,000

(4) 主要な締め切り一覧

内 容	期 日
オーガナイズドセッション企画案提出	2026年4月24日(金)
一般発表セッション申込み	2026年5月15日(金)
発表論文提出	2026年6月5日(金)
事前参加費振込み	2026年6月19日(金)

以上